

# コロナは今日も待たなし —コロナ禍の内視鏡室—

札幌市医師会  
札幌循環器病院

## 中村とき子

2021年1月7日午後5時、「今日の東京のコロナ感染者数は2,447人ですって」。職員がすれ違いざまに、声を潜めて言う。今日は全国の感染者数はきつと7,000人を超えてしまうだろう。黒い煙が不気味に押し寄せ、互いの足元が見えなくなるような不安。これからどうなるのだろうか？ SF映画？ 現実はまだもっと不気味で恐ろしい。

内視鏡室は飛沫の小部屋である。防護服、キャップ、マスク、手袋、換気、空気清浄機は2台設置、考えられうる対策を全部やっていると思ってはいても、無症状感染者からウイルスの飛沫がひとたび飛べば、一瞬で私たちは飛沫を吸い込むだろう。夜布団に入ると、自然と次の日の検査をシミュレーションする毎日だ。「もしクラスターになったら？ 一人目の患者さんが無症状感染者だったら、次の患者さんは大丈夫？ 隣にいる看護師さんが飛沫を吸いこんだら？ 換気と消毒はばっちりしている。札幌市民が180万人として、陽性者が1%いると仮定したら、明日、私が検査する患者さんがコロナに罹患している確率なんて、とても低いはずだ。科学的に考えたら心配ない、心配ない」。自問自答しては誰かと相談したくなる。先輩に電話してみる。「そうだけども、確率は低くたってロシアンルーレットだぞ。当たったらバキューン！ 終わりだよ。今すぐ陸海空封鎖せよ！ 防疫の基本だ！ 日本政府や厚生労働省は何をしているのだ！」「全くです。その通り、封鎖して検査して隔離する、ただその3点なのにね」。でも、私などには何の力もない。発信力もない。気分を変えて後輩に電話してみる。「先生の病院の内視鏡室が一番対策ちゃんとしているように思いますよ。大丈夫。でも、実際、私のところは、検査数は抑えていますけどね」「ふーん。あっそうなのね」。

誰かと話して少し笑うと本当に救われた。一年間、この繰り返しだった。いつも話を聞いてくれてありがとうね。

追いつかないPCR検査数、拡充されない隔離施設、承認されない治療薬、現実には思いもよらぬ方向へ向かう。日本の未来の命運を握る人たちは、付度と高慢に溺れ、見たくないものは見ず、聞きたくないことは聞かないの？ 腹が立つと同時に自分がとても無力な存在であることに気が付き、気落ちする。コロナが明けたら難民の子供たちを支援しようとか、善きサマリア人として生きようなどと、全く別の未来の目標を定めてみたりした。コロナ鬱とや

らにならないように、自己防衛したのだろう。

台湾やニュージーランドのように感染を封じ込めるチャンスは、島国である日本には何度も何度もあった。経験のある医療者が知見を出し、軍師官兵衛のごとく学者が理論、戦略を練る。そして将軍が決断し戦う（政治が運用する）と思っていた。でも大将は、布マスクを発注して消えた。

今日は、看護師、看護部長、事務長総出で、アクリル板やビニール袋、スチールの棒で、飛沫防止の患者さんの上半身が入れるBOXの制作を試みた。神妙に、恥ずかし気に看護師が手作り透明ビニールBOXに入り、私は内視鏡を持ってみる。私は大まじめだ。アクリル板に明ける穴の位置の調整は実物を見ながら話し合い、期待以上の良いものができた。何より話し合うことが嬉しい、独りぼっちな戦いだったら私は耐えられないだろう。

昨年3月末、不要不急の内視鏡検査は延期または中止するように日本消化器内視鏡学会からの提言が出たころ、釣った魚をさばいて食べて約5時間後から胃が痛い受診した初診の50代男性の患者さんがいた。明らかにアニサキスである。万が一コロナだったら取り返しがつかない、不要じゃないし不急でもないから、カメラするよと遠慮がちに言い出そうとする私より先に、内視鏡のスタッフが笑って言った。このビニール袋かぶってやろうよ、だって先生はアニサキスだって思うのでしょうか？ そのスタッフには子供が3人いる。目の前の患者さんは、「すごーく腹が痛い、人生で一番腹が痛い」と腰をまげて訴える。胸部CTではGGO(-)。アニサキスは結局3匹いた。

昨年末にスタッフが笑った。

「先生あの時ビニールかぶって虫とったよね。今思うとなんでビニール袋をかぶったかね（笑）感染対策はしてたのに、その上ビニール袋までかぶったね。必死だったね。写真を撮っておけばよかったわー。コロナ明けたらステーキ御馳走してね」

早くステーキを御馳走したいとしみじみ思った。無力だけど案外幸せ。この一年会食はしていない。



←手元と患者さんの距離ができるため、操作性が悪く、このBOXは使い勝手が悪かったです。ビニールは患者さんごとに取り換えています。



マウスピースの上から、→十文字に切り込みを入れたサージカルマスクを装着して内視鏡検査をしています。患者さんからは好評です。